

人々の生活に関わるリハビリテーション医学



氏名： 関 勝 Masaru Seki

取得学位：博士(医学)（慶應義塾大学；第3500号）

所属：人間総合科

研究分野：リハビリテーション医学

キーワード：muscle hardness, spasticity, motor recovery, measurement

取り組み内容

私の専門分野である「生活医学」としての「リハビリテーション医学」における基礎及び臨床全般、特に筋緊張の定量的評価と動作コントロール、身体機能～認知機能科学と予後予測、筋力トレーニングと効果実証、小児のADL（日常生活動作）評価、さらにはチームアプローチ論、医学医療教育実践などに慶應義塾大学医学部・大学院医学研究科講師を含めて幅広く取り組んでおります。主なテーマとして、筋緊張制御における「筋硬度（muscle hardness）」の生体力学的・電気生理学的研究、急性期脳血管障害における運動麻痺の経時的变化（motor recovery）に関する検討、脊髄障害における機能予後予測とリハビリテーション、RAリハビリテーションのパラダイムシフト等があり、「The Latest concept of spasticity – The evaluation of Muscle Hardness in hemiplegic stroke」（Cerebrovasc. Dis.34）、「Comparison of three instruments to assess changes of motor impairment in acute hemispheric stroke: the Stroke Impairment Assessment Set (SIAS), the National Institute of Health Stroke Scale (NIHSS) and the Canadian Neurological Scale (CNS)」（Disabil Rehabil.36）等に発表しています。

教育実績として本学では「リハビリテーション医学」、「リハビリテーション概論」、「整形外科学」、「神経内科学」、「脳神経外科学」、「内科学」、「人体の構造・機能・疾病」、「病態生理学」、「臨床医学概論」等の全学科に渡る多彩な科目を担当する一方、慶應義塾大学医学部における研究・研修指導、慶應義塾大学看護医療学部での「病態学各論」、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科スポーツマネジメント専攻において「老年医学・高齢者スポーツ医学」を担い、著書として「リハビリテーション医学」（医歯薬出版）、「小児リハビリテーション評価マニュアル」（診断と治療社）、「リハビリテーション医学テキスト」（南江堂）、「子どものリハビリテーション医学」（医学書院）等を執筆いたしております。

他方で ICME (institute of complex medical engineering) councilor、公益社団法人日本リハビリテーション医学会代議員ならびに専門医試験委員会特別委員、厚生労働省（公益財団法人柔道整復研修試験財団）国家試験委員会幹事委員、厚生労働省（公益財団法人社会福祉振興試験センター）国家試験委員会委員（介護福祉士）、厚生労働省（理学療法士・作業療法士）国家試験委員会前幹事委員、JISPRM (The Journal of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine) Editorial Reviewer、Progress in Rehabilitation Medicine Editorial Reviewer、Disability Rehabilitation: Journal Editorial Reviewer、JJCRS: Editorial Board、横須賀市介護認定審査会前合議体長、神奈川リハビリテーション研究会幹事、三浦半島リウマチトータルケア懇話会世話人等の活動を通じて、社会・地域に貢献しています。